

骨喰藤四郎

豊臣秀吉(1537-1598)が大切にされたこの刀は、剣の名工、栗田口藤四郎吉光(生没年不詳)によって作られたと言われている。その血の凍るような名前は、制作者の名前(藤四郎)と、単に敵を斬るだけの普通の刀よりも破壊力のある刀であるといういわれが組み合わされたものである。元々は薙刀(長い棒に湾曲した刃がついた武器)だったが、紆余曲折を経て今の形に改造された。この刀は、秀吉の手に渡るまでに、英雄的な戦士、強力な将軍、冷酷な暗殺者など様々な人々の手を経てきた。日本の歴史上最初の将軍である源頼朝(1147-1198)がこの刀の最初の所有者だった。その後、中世の大半にかけて日本を統治した足利将軍家で代々受け継がれる品となり、その頃に刀につくりかえられた。しかし、1615年に徳川家によって豊臣家が滅ぼされると、刀は新しい将軍家の所有物になった。明治維新後、徳川家の当主が豊国神社に刀を寄贈した。